

(日本銀行仮訳)

プレスリリース

2026年5月27日

プロジェクト「アゴラ」はトークン化によるホールセールクロスボーダー決済の改善のあり方を示す：今後は資金移動を伴うテストを実施

- ・プロジェクト「アゴラ」のプロトタイプは、トークン化やプログラマブルな技術が、中央銀行預金による決済の安全性や完全性を保ちながら、ホールセールのクロスボーダー決済における長年の非効率性に十分対処し得ることを示している。
- ・本プロジェクトは、トークン化された中央銀行預金と商業銀行預金を用いて、ホールセールのクロスボーダー取引におけるアトミック決済を実現できる可能性を示している。こうしたことが、通貨や法域をまたいで安全かつファイナリティを確保するかたちで実現し得ることを、今回の知見は示唆している。
- ・本プロジェクトでは、一部の通貨や参加者による、資金移動を伴う取引を含む、さらなるテストが行われる予定である。また、カナダ中央銀行が本プロジェクトに参加する予定である。

国際決済銀行（BIS）と国際金融協会（IIF）が主導する、前例のないプロジェクト「アゴラ」は、トークン化された中央銀行預金と商業銀行預金を用いた複数通貨間の決済により、安全かつ確実な方法でクロスボーダー決済における非効率性に対処し得る可能性を示している。

イングランド銀行、ニューヨーク連邦準備銀行、フランス銀行（ユーロシステムを代表）、日本銀行、韓国銀行、メキシコ銀行、スイス国立銀行のほか、40を超える民間金融機関が参加する本プロジェクトは、本日、これまでの検討から得られた知見を詳述した報告書を公表した。

報告書は、プロジェクト「アゴラ」のプロトタイプの開発から得られた主な知見として、以下の点を強調している。

- ・トークン化された中央銀行預金と商業銀行預金を用いた複数通貨間の決済により、安全かつ確実な方法で、トークン化はホールセールのクロスボーダー決済における非効率性への対処に役立つ可能性がある。
- ・参加する通貨や法域において、アトミック決済（クロスボーダーのホールセー

ル取引のチェーン上で「全てかゼロ」の形で決済を実行)が安全に実現可能である。

- ・プロトタイプの実装の二層構造のアーキテクチャにより、相互運用可能な共通プラットフォーム上で、中央銀行が自法域の通貨やオペレーションの自律性を維持することができる。

- ・規制遵守を支援しつつ秘匿性の高いデータを保護する技術を通じて、トークン残高および取引の双方のレベルで、プライバシーは保護される。

- ・プロジェクト「アゴラ」で検討されているトークン化は、トークン化された中央銀行預金や商業銀行預金の法的特徴や関連する義務を変えるものではない。

- ・法的分析により、7つのすべての参加法域において、決済のファイナリティが実現可能であることが示された。ただし、各法域の法的枠組みに最も適した技術的、オペレーション上、契約上の要件の定義といった、さらなる作業が必要である。

- ・モジュラー設計は、条件付きで常時可能な決済を含む、新たな機能の実装を可能にするほか、規制やデータ共有の枠組みの発展に伴い、マネーロンダリング対策やテロ資金供与対策、制裁遵守、不正検出等の分野における将来の機能拡張も可能とする。

中央銀行を含むプロジェクト参加者は、プロトタイプの実装の潜在的な便益をさらに探求していくことに、強い継続的な関心を示している。今後の作業では、参加中央銀行の継続的かつ積極的な関与に支えられながら、民間セクターがより重要な役割を果たすことが期待されている。カナダ中央銀行が本プロジェクトに参加したほか、さらなる民間金融機関が本プロジェクトに参加予定である。

本プロジェクトに関する追加的な情報は、プロジェクトの進展に伴い、BIS や IIF のウェブサイトで公表される。